

胃内視鏡検査(胃カメラ)の同意書

口または鼻から内視鏡を挿入して、食道・胃・十二指腸を観察します。潰瘍や炎症、腫瘍、ポリープなどを診断するために行います。

鼻からのカメラの方が喉元の反射が弱くなり、一般的に苦痛が少ないですが、鼻血のリスクや、鼻腔が狭くカメラが入りにくい場合もあります。

- 診断のために組織の一部を採取し、病理組織検査(生検)を行うことがあります。
- 医師が判断した際には、採取した組織からピロリ菌の迅速検査を行うこともあります。

<偶発症について>

- カメラが通過することで喉に軽度の炎症やむくみを生じ、検査後に喉の違和感が残ることがありますが、通常は次第に消失します。
- 他には、鎮静剤投与による低酸素状態や血圧低下、局所麻酔剤へのアレルギー反応(呼吸困難、ショック状態)の報告例もあります。カメラの挿入で歯が折れたり、経鼻内視鏡では鼻血を生じたりする可能性もあります。

* 2008-2012年の観察を目的とした経口内視鏡の偶発症は0.005%、経鼻内視鏡の偶発症は0.024%と報告されています。

<麻酔(鎮静剤)について>

希望される方には麻酔(鎮静剤)を投与し、眠った状態で検査を受けることも可能です。

- 検査後、お車の運転はご遠慮ください。
- 薬の影響で、検査後の説明を忘れてしまうことがあります。その場合には再度説明を行いますので、当院へご連絡ください。
- 鎮静剤が効きすぎると呼吸停止やショック状態など致命的な偶発症をきたす可能性があります。医師の判断で検査の中止や救命処置を行うこともあります。

かしいはま内科・内視鏡クリニック殿

私は内視鏡検査に関してその必要性和偶発症の説明を受け、理解した上で同意します。

西暦 年 月 日

本人または代理人署名

本人以外の時 (続柄:)

かしいはま内科・内視鏡クリニック